

Drosophila Research Conferenceに参加して

密度の濃い討論は圧巻

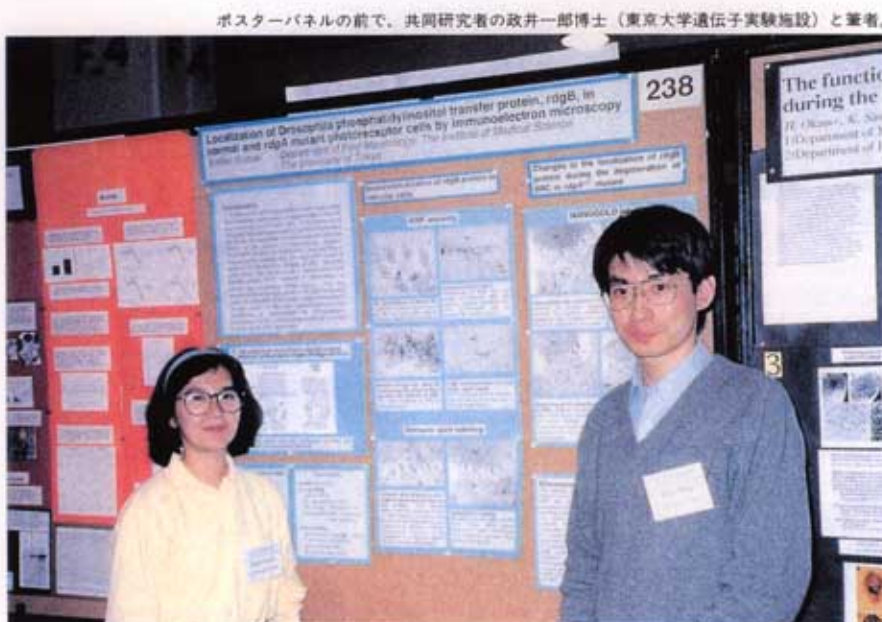
微細形態学研究部

鈴木えみ子

4月20日-24日にシカゴで開かれた35th Annual Drosophila Research Conferenceに出席しました。幸運にも、今年から開始した医科学研究所国際交流基金の援助をいただけて行くことができました。本基金に貢献して下さった方々に、この欄をおかりして厚く御礼申し上げます。

この学会は、Drosophila関係の学会としては規模が大きく、学生から大物教授までがアメリカ国内外から集まる、にぎやかな学会です。前回の学会に出席した友達から、いろいろと新しい情報を（うらやましく思いながら）教えてもらっていたので、ぜひ今度は出席したいと思っていました。今年は、Cold Spring Harbor Symposiumに、美味しいところを少し持っていかれた感がありましたが、それでも、期待どうりいろいろな収穫が得られました。

第1の収穫は、日本では得られない新鮮な情報を得たことです。自分の研究テーマに直接関係する研究を行なっているグループが、海外にいくつかあるので、彼らの最新のデータを聞くことが今回の目的の一つでした。その点、100%とはいえませんが一応の成果が得られました。また、専門外の情報も否応なしに入ってくるので、とても勉



ポスターパネルの前で、共同研究者の政井一郎博士（東京大学遺伝子実験施設）と筆者。

強になりました。

第2の収穫は、少々痛みを伴いましたが、自分の研究についての批評を多くの研究者から得たことです。私の発表も含め大部分の発表がポスター形式で、しかもテーマごとにうまくグループ化して配置されていたので、関連する分野の研究者と、密度の濃い討論が行なえました。討論時間は3回あり、合計6時間近くに及びました。

最もうれしかった収穫は、ささやかな日米摩擦の解消です。2年ほど前からアメリカの研究者達と共同研究を進めていたのですが、しばらく会う機会がなく、Faxやe-mailのやりとりだけ

では、どうも意志がうまく伝わらないと感じていました。返事がなかなか来なかったりすると不信感すら抱きそうな状況でした。今回の学会で彼らと会うことができ、信頼関係を取り戻すことができました。

学会のおまけとしては、留学中あるいは日本から出席した研究者仲間との飲みコミュニケーションをあげたいと思います。内容については読者のご想像におまかせします。

最後になりましたが、学会発表を勧めて下さった先生方や、発表の準備を手伝って下さった教室の皆さんにお礼を申し上げます。

編集後記

早いもので、もう2号の発行です。今回の表紙は病院のステンドグラスです。医科研には長くいるのですが、今の今までステンドグラスのことは知りませんでした。さっそく、見に行きました。結構大きくて、きれいなものです。百年たった研究所の懐の深さ(?)か、思いがけないものが、医科研にはまだまだ有りそうです。一度、探検

してみようかな。

今回は6月1日の創立記念日のような絶対的な締め切りがなかったので、ずいぶん楽な編集になりました。でも、気の緩みも出たようで、直前になって、原稿をお願いせざるを得なかったこともありました。快く、原稿を書いて下さった方々に心より感謝いたします。

菅